

## 新学習指導要領で評価が変わる！

# 新学習指導要領における学習評価の進め方 (小学校 家庭科)



平成 23 年度から、小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については、平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が、平成 23 年 3 月には、「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が、国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は、新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

(主な内容)

- 1 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
- 2 小学校家庭科における教科目標、評価の観点とその趣旨について
- 3 小学校家庭科における学習評価の進め方
- 4 小学校家庭科における学習評価事例
- 5 小学校家庭科における学習評価の進め方 Q & A



## 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については、児童生徒の「生きる力」の育成をめざし、児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し、児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

## 各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、実践事例を着実に継承していくこと、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に、校長のリーダーシップの下で、学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また、年間指導計画を検討する際には、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況に関わった最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが、評価すべき点を見落としていないかの確認や、必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き、効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

## 新学習指導要領における学習評価の観点について

### (1) 従前と新学習指導要領における学習評価の観点

| 従前の観点      | 新学習指導要領における観点 |
|------------|---------------|
| 「関心・意欲・態度」 | 「関心・意欲・態度」    |
| 「思考・判断」    | 「思考・判断・表現」    |
| 「技能・表現」    | 「技能」          |
| 「知識・理解」    | 「知識・理解」       |

### (2) 新学習指導要領における学習評価の観点の説明

#### 「関心・意欲・態度」

これまでと同様、各教科の学習に即した関心や意欲、学習への態度等を対象としたもので、その趣旨に変更はありません。

#### 「思考・判断・表現」

「表現」については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり、ここでいう「表現」とは、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を、言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

#### 「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

#### 「知識・理解」

これまでと同様、各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので、その趣旨に変更はありません。

## 小学校 家庭科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

### 1 教科目標

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して，日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに，家庭生活を大切にしている心情をはぐくみ，家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

基本的な考え方はこれまでと同様ですが，以下の3点について改善が図られています。

従前「家庭生活への関心を高める」 現行「家庭生活を大切にしている心情をはぐくみ」

家庭生活への関心を高めるとともに，衣食住などの生活の営みの大切さに気付くことを重視。

従前「生活を工夫しようとする実践的な態度」 現行「生活をよりよくしようとする実践的な態度」

生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を重視。

従前「基礎的な知識と技能」 現行「基礎的・基本的な知識及び技能」

学習指導要領全体の表記との統一を図る。

### 2 評価の観点及びその趣旨

| 家庭生活への<br>関心・意欲・態度   | 生活を<br>創意工夫する能力  | 生活の技能                                      | 家庭生活についての<br>知識・理解                         |
|--|--|--|--|
| 衣食住や家庭の生活などについて関心をもち， <u>その大切さに気付き</u> ，家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。 | 家庭生活について見直し，身近な生活の課題を見付け，その解決を目指して生活をよりよくするために <u>考え自分なりに工夫している。</u> | 日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。 | 日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 |

下線は従前からの変更点であり，佐賀県教育センターによる

### これまでと変わったところは？

評価の観点はこれまでと変更はないですが，その趣旨については新学習指導要領の趣旨を踏まえて改善が図られている点に留意する必要があります。

特に「生活を創意工夫する能力」の観点では，家庭生活における身近な課題の解決を目指して考える（思考力），考えたことを基に課題の解決を図る（判断力），考えたことを的確に表す（表現力）を含んでおり，これらを一体的に評価することが求められています。

### 3 第5学年及び第6学年の評価の観定の趣旨

|                   | 家庭生活への<br>関心・意欲・態度  | 生活を<br>創意工夫する能力  | 生活の技能   | 家庭生活についての<br>知識・理解  |
|-------------------|---|--|---|---|
| 第5<br>6<br>学<br>年 | 自分の成長と衣食住や家族の生活などについて関心をもち，その大切さに気付き，家族の一員として家庭生活をよりよくするために進んで取り組み実践しようとする。 | 衣食住や家族の生活などについて見直し，課題を見付け，その解決を目指して家庭生活をよりよくするために考えたり自分なりに工夫したりしている。 | 生活の自立の基礎として日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。 | 家庭生活を支えているものや大切さを理解し，日常生活に必要な衣食住や家庭の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 |

これまで通り，学校や児童の実態に応じた指導ができるようにするため，学年の目標は2学年まとめを示し方となっていることを受けています。

## 評価規準は、どうやって設定するの？

各学校において、評価規準を設定するにあたっては、国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」(以下参考資料)を参考にして、各学校で実施される授業に即した評価規準を設定することができます。

家庭科では、内容相互の関連を図り、題材を構成して指導することから、「題材の評価規準」は、題材の指導目標を明確にして複数の内容の「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考に設定することになります。

「学習活動に即した評価規準」は、その時間のねらいや学習活動に照らして「評価規準の設定例」を参考にして設定することになります。その際、毎時間4観点について評価するのではなく、いずれかの観点到重点を置くなど適切に設定することが大切です。

第5学年と第6学年の2学年間を見通した指導計画を基に、題材で指導する内容を明確にした評価計画を立てる必要があります。

「B 日常の食事と調理の基礎」の(3)「調理の基礎」  
「C 快適な衣服と住まい」の(3)「生活に役に立つものの製作」

上記については、特に、2学年間で段階的に学習を進めることから、それぞれの題材で重点を置く指導内容を明確にすることが大切です。具体的には、B(3)及びC(3)の「評価規準の設定例」の中から必要な内容を選んだり、組み合わせたりして評価規準を設定することとなります。

## 小学校家庭科における評価規準の設定例

ここでは、学習評価事例1に示している「家族のためにおいしいごはんのみそ汁をつくろう」を取り上げて評価規準の設定について考えていきます。本題材の目標は、「日本の伝統的な食事である米飯とみそ汁に関心を持ち、調理の仕方について考えたり、自分なりにみそ汁の実を工夫したりして、おいしい米飯とみそ汁を作ることができる。」とします。

その場合、かかわってくる評価規準は、内容「B 日常の食事と調理の基礎」の(3)「調理の基礎」ということとなります。参考資料より評価規準に盛り込むべき事項は下記のようになります。

### 【「(3)調理の基礎」の評価規準に盛り込むべき事項】

| 家庭生活への<br>関心・意欲・態度                   | 生活を<br>創意工夫する能力                           | 生活の技能                                    | 家庭生活についての<br>知識・理解                       |
|--------------------------------------|---|--|--|
| 調理に関心を持ち、日常よく使用される食品を用いた調理をしようとしている。 | 日常よく使用される食品を用いた調理について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 | 日常よく使用される食品を用いた調理に関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。 | 日常よく使用される食品を用いた調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 |

しかし、題材の目標を「日本の伝統的な食事である米飯とみそ汁に関心を持ち、米やみその栄養的な特徴を理解し、調理の仕方について考えたり、自分なりにみそ汁の実を工夫したりして、おいしい米飯とみそ汁

を作ることができる。」とすると、内容「B 日常の食事と調理の基礎」の(2)「栄養を考えた食事」が加わることになり、下記の評価規準が加わります。

【「(2)栄養を考えた食事」の評価規準に盛り込むべき事項】

| 家庭生活への<br>関心・意欲・態度                         | 生活を<br>創意工夫する能力  | 生活の技能 | 家庭生活についての<br>知識・理解                                  |
|--|--|-------|---|
| 日常の食事に関心をもち、<br>栄養を考えた食事のとり<br>方をしようとしている。 | 栄養を考えた食事につい<br>て課題を見付け、その解決<br>を目指して考えたり、自分<br>なりに工夫したりしてい<br>る。 |       | 栄養を考えた食事のとり<br>方について理解し、基礎<br>的・基本的な知識を身に付<br>けている。 |

それぞれに対応して評価規準の設定例が参考資料に記載されていますので、それをそのまま活用してもよいのですが、あくまでも、設定した題材の目標や学習内容に合うものでないといけません。よって、この題材例では、例えば、次のような評価規準が考えられます。

| 家庭生活への<br>関心・意欲・態度  | 生活を<br>創意工夫する能力                                       | 生活の技能                                     | 家庭生活についての<br>知識・理解                               |
|---|---|---|--|
| 日本の伝統的な日常食で<br>ある米飯及びみそ汁に関<br>心をもち、米やみその栄養<br>的な特徴や食品の組み合<br>わせを考えて調理をしょ<br>うとしている。 | おいしい米飯及びみそ汁<br>の調理の仕方について考<br>えたり、自分なりに工夫し<br>たりしている。 | 米飯及びみそ汁の調理に<br>関する基礎的・基本的な技<br>能を身に付けている。 | 米やみその栄養的な特徴<br>や米飯及びみそ汁の調理<br>の仕方について理解して<br>いる。 |

このように、題材の目標に合わせ、参考資料を基に評価規準を作成していきましょう。

各観点の評価方法は？

【家庭生活への関心・意欲・態度】は、どうやって評価するの？

この観点では、衣食住や家族の生活などに関心をもち家庭生活の営みの大切さに気付いているか、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしているかを評価します。

例えば、自分の食生活などに関心をもっているか、自分の成長に関心をもっているか、朝食の大切さに気付いているか、家庭の仕事に進んで取り組もうとしているか、学習したことを自分の生活に生かそうとしているか、家族の一員として協力しようとしているかなどです。

この観点は、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で多面的に評価することが大切です。また、同じ学習活動の中で他の観点と併せて評価する場合も考えられます。その際は、それぞれの観点における具体的な実現状況と評価方法を明確にしておくことが大切です。

この観点は、行動観察、発言の内容、学習カードの記述内容などで見取ることができます。



## 【生活を創意工夫する能力】は、どうやって評価するの？

この観点は、衣食住や家族の生活をよりよくするために、身近な課題を様々な角度から考え工夫したり、様々な考えを整理して判断したり、考えを的確に表現したり、考えを的確に表現したりする能力が身に付いているかを評価します。

例えば、自分の生活から課題を見つけているか、学習した知識や技能を活用して考え、工夫しているかなどです。

この観点では、児童が考えたり自分なりに工夫したりしたことを、図や言葉でまとめ、発表し合うなど、言語活動を中心とした表現に係る活動を通して評価することに留意する必要があります。また、学習結果だけを評価するのではなく、学習過程の評価ができるような評価計画とすることが重要です。

この観点は、行動観察、発言の内容、学習カードの記述内容、実習の計画・記録表の記述内容、できた作品（の写真）相互評価の記述内容などで見取ることができます。

## 【生活の技能】は、どうやって評価するの？

この観点は、生活における自立の基礎として、日常生活に必要な基礎的・基本的な技能が身に付いているかを評価します。

例えば、衣食住や家族の生活などに必要な技能が身に付いているか、自分の生活での応用・発展に繋がる基礎的な技能が身に付いているかなどです。

この観点は基本的に教師用チェックリストを用いての行動観察で評価することになりますが、児童の相互評価の記述や作品により、活動の過程における児童の実現状況をより詳細に把握し、それを評価結果に生かすことも考えられます。その際、相互評価については、見本や写真と照らし合わせて評価をさせたり、グループやペアで行わせたりすることにより、技能の上達の状況を評価できるように工夫することが必要です。また、技能は繰り返し行うことによって身に付くことから、「指導に生かす評価」（「努力を要する」状況と判断される児童の把握とその手立てを考えるための評価）と、「評価結果として記録する評価」を位置付けることも大切です。

この観点は、行動観察、できた作品（の写真）、相互評価の記述内容などで見取することができます。

## 【家庭生活についての知識・理解】は、どうやって評価するの？

この観点は、衣食住や家庭の生活などに関する基礎的・基本的な知識が身に付いているか、家庭生活についての基本的な理解ができているかを評価します。

例えば、日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか、家庭生活を構成している要素や生活の営みの大切さを理解しているかなどです。

この観点は、学習カードの記述内容やペーパーテストなどを通して評価することができます。知識・理解については、話し合い、実際の活動などを通して、児童が実感を伴って理解することができるように配慮する必要があります。また、ペーパーテストについては、ある程度の内容のまとめりについて実施することが考えられます。

この観点は、学習カードの記述内容、ペーパーテストなどで見取することができます。

## 小学校家庭科における学習評価事例 1

一題材の中で、「指導に生かす評価」と「評価結果として記録する評価」に分けた評価を設けた事例「家族のためのおいしいごはんのみそ汁をつくろう」という題材を基に、学習評価の進め方について紹介します。

まず、この題材は内容「B 日常の食事と調理の基礎」の(2)「栄養を考えた食事」(3)「調理の基礎」の関連を図り、「ご飯のみそ汁」について基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、栄養を考えたみそ汁の実を工夫することを課題にし、小集団での調理と個人の調理を行い、技術の習得を図る構成になっています。この場合、技能の評価については、1回目の調理実習では、「指導に生かす評価」(「努力を要する」状況と判断される児童の把握とその手立てを考えるための評価)として位置付け、2回目の調理実習の評価は「評価結果として記録に残す評価」として位置付けています。

題材名 家族のためのおいしいごはんのみそ汁をつくろう

### 1 題材の目標

日本の伝統的な食事である米飯のみそ汁に関心を持ち、米やみその栄養的な特徴を理解し、調理の仕方について考えたり、自分なりにみそ汁の実を工夫したりして、おいしい米飯のみそ汁を作ることができる。

題材の指導計画

(総授業時数 15 時間)

|                     |      |
|---------------------|------|
| 〔1〕お米とご飯について知ろう     | 4 時間 |
| 〔2〕みそのみそ汁について知ろう    | 2 時間 |
| 〔3〕おいしいみそ汁のポイントを探そう | 4 時間 |
| 〔4〕おいしいみそ汁を作ろう      | 2 時間 |
| 〔5〕家族のためのみそ汁を作ろう    | 2 時間 |
| 〔6〕家庭での実践を発表しよう     | 1 時間 |

### 2 題材の評価規準

| 家庭生活への<br>関心・意欲・態度  | 生活を<br>創意工夫する能力                           | 生活の技能                             | 家庭生活についての<br>知識・理解                   |
|---|---|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 日本の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁に関心を持ち、米やみその栄養的な特徴や食品の組み合わせを考えて調理をしようとしている。 | おいしい米飯及びみそ汁の調理の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 | 米飯及びみそ汁の調理に関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。 | 米やみその栄養的な特徴や米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解している。 |

### 3 指導と評価の計画 (15 時間)

| 時間     | ねらい・学習活動   | 評価規準             |          |    |           | 評価規準 (評価方法)  |
|--------|--|------------------|----------|----|-----------|--|
|        |  | 関心・<br>意欲・<br>態度 | 創意<br>工夫 | 技能 | 知識・<br>理解 |  |
| 1<br>2 | 米とご飯に関心をもって、観察することができる。<br>・30分浸水して炊いたご飯と浸水しないで炊いたご飯を比べる。<br>・生の米と浸水した米を比べる。 |                  |          |    |           | <b>関</b> 米や浸水した米、炊飯などについて進んで調べようとしている。<br><b>(行動観察, 学習カード)</b> |

|                   |  |  |  |  |  |   |
|-------------------|--|--|--|--|--|---|
| 3<br>4            | 観察を通して、炊飯の過程を理解できる。<br>・耐熱性のガラス鍋を使って、炊飯の過程を観察する。<br>・炊飯の過程をまとめる。           |  |  |  |  | 知 ご飯の調理の仕方や米の変化の様子から、炊飯の過程がわかる。<br>(行動観察, 学習カード, ペーパーテスト)   |
| 5<br>6            | 試食を通して、おいしいみそ汁を作る課題を考える。<br>・種類のみそ汁を試食しながら、みその入れ方、みそ汁の実の切り方、だしの必要性について気付く。 |  |  |  |  | 関 みそ汁の調理の仕方に関心をもって、進んで調べようとしている。<br>(行動観察, 学習カード)<br>知 みそ汁の調理の仕方について理解している。<br>(行動観察, 学習カード, ペーパーテスト) |
| 7<br>8<br>9<br>10 | おいしいみそ汁を作る課題を探ることができる。<br>・グループで課題を解決し、おいしいみそ汁の作り方を理解する。                   | <b>指導に生かす評価</b><br>特に「努力を要する」状況(C)と評価されそうな児童については、ここでの評価を基に適切な指導を行うことが大切です。      |  |  |  | 創 自分の課題を解決できるように工夫することができる。   |
| 11<br>12          | 小グループでみそ汁を作ることができる。<br>・同じ材料で調理実習をする。                                      |  |  |  |  | 技 みそ汁の調理ができる。<br>(行動観察, 調理計画, 学習カード)<br>創 家族のためにみそ汁を工夫している。<br>(行動観察, 調理計画, 学習カード)                    |
| 13<br>14          | 家族のために工夫したみそ汁を一人で作ることができる。<br>・他の材料を使用して調理実習をする。                           | <b>評価結果として記録に残す評価</b><br>ここで、すべての児童が少なくとも「おおむね満足できる」状況(B)と評価できるように指導を進めることが大切です。 |  |  |  |   |
| 15                | 学校で学んだことを家庭で実践し、紹介し合う。<br>・各家庭で作ったみそ汁の実践を友達に紹介する。                          |  |  |  |  | 関 学んだことを生かして調理をしようとしている。<br>(行動観察, 学習カード, 写真)   |

ペーパーテストについては、学期末にまとめて実施する。

#### 4 生活の技能の評価

みそ汁の調理実習における「生活の技能」の評価のポイントは、次に示すような内容です。1回目は、教師の指導の際の手立ての例を、2回目は評価をする際のポイント例を示しています。このようなポイントを基に行動観察用のチェックリストを作成するなどして、児童一人一人の学習状況を記録し、その後の指導と評価に生かしていくことが大切です。

|   |
|---|
| <p>1 回目の調理実習 (指導に生かす評価)</p> <p>評価するポイントと手立ての例</p> <p>だしのとり方・・・煮干しの取扱いを示す。</p> <p>実の切り方・・・切り方見本を見せる。包丁の使い方や切り方を示す。</p> <p>みその扱い方・・・みその入れ方とタイミングを示す。</p> <p>味見・・・他のみそ汁と味の比較をさせる。みその分量を示す。</p> |
| <p>2 回目の調理実習 (評価結果として記録に残す評価)</p> <p>評価するポイントの例</p> <p>だしのとり方・・・だしの材料に合わせた取扱いができていないか。</p> <p>実の切り方・・・みそ汁の実として適当な材料の切り方をしているか。</p> <p>みその扱い方・・・最後に、といたみそを入れているか。</p> <p>味見・・・みその分量は適当か。</p> |



## 小学校家庭科における学習評価事例 2

児童の記述を基に「生活を創意工夫する能力」を評価した事例

「思い出の服で家族への感謝を伝えよう」という題材を基に、学習評価の進め方について紹介します。

この題材は、「C 快適な衣服と住まい」(3)「生活に役立つ物の製作」と「D 身近な消費生活と環境」(2)「環境に配慮した生活の工夫」アと「A 家庭生活と家族」(1)「自分の成長と家族」ア、(3)「家族や近隣の人々とのかかわり」アとの関連を図っている。

本題材では、衣生活について2年間学習してきたまとめの「生活に役立つ物の製作」として取り上げている。自分の成長によって着られなくなった服を使ったりリメイク作品を製作しこれまで支えてくれた家族へ感謝の気持ちを込めてプレゼントするという構成になっている。この題材に至るまでには、下記のような題材配列と指導内容で知識や技能を習得してきている児童が、それを生かして製作できるようにしている。

「C 快適な衣服と住まい」(3)「生活に役立つ物の製作」における2学年間を見通した題材配列と指導内容

| 学 年      |                             | 第5学年                |                  | 第6学年                  |
|----------|-----------------------------|---------------------|------------------|-----------------------|
| 題 材      |                             | さいほう道具を<br>使おう！     | ミシンぬいに<br>チャレンジ！ | 思い出の服で家族へ<br>の感謝を伝えよう |
| 時 間      |                             | 8                   | 11               | 13                    |
| 指導<br>項目 | (1) 衣服の着用と手入れ               |                     |                  |                       |
|          | (2) 快適な住まい方                 |                     |                  |                       |
|          | (3) 生活に役に立つ物の製作             |                     |                  |                       |
|          | その他の内容                      | D(2)ア               | D(2)ア            | A(1)ア(3)ア<br>D(2)ア    |
| 実 習 題 材  |                             | ネームプレート<br>ティッシュカバー | エプロン             | リメイク作品                |
| (1)      | ア 衣服の着方                     |                     |                  |                       |
|          | イ ボタン付け<br>洗濯               |                     |                  |                       |
|          | ア 整理・整頓<br>衣類のたたみ方<br>清掃の仕方 |                     |                  |                       |
| (2)      | イ 換気・風通し<br>採光・照明           |                     |                  |                       |
|          | (3)                         | ア 製作計画<br>型紙        |                  |                       |
| イ        |                             | 玉結び                 |                  |                       |
|          |                             | 玉どめ                 |                  |                       |
|          |                             | なみぬい                |                  |                       |
|          |                             | 返しぬい                |                  |                       |
|          |                             | かがりぬい               |                  |                       |
|          |                             | ミシンの扱い方             |                  |                       |
|          |                             | ミシンで直線縫い            |                  |                       |
| まち針      |                             |                     |                  |                       |
| 三つ折り     |                             |                     |                  |                       |
| ウ        | 裁縫道具の扱い方                    |                     |                  |                       |
|          | アイロンがけ                      |                     |                  |                       |

は重点を置くもの

題材名 思い出の服で家族への感謝を伝えよう

### 1 題材の目標

成長して着られなくなった服から自分の成長と家族に関心をもち、これまで学習してきた技術を生かし、思い出の服から家族へのプレゼントを製作して感謝の思いを伝えるとともに物を大事にする気持ちをもつ。

題材の指導計画

(総授業時数 13時間)

- [1] 着られなくなった服との思い出を語ろう 2時間
- [2] 思い出の服で家族への感謝を伝えよう 10時間
- [3] プレゼントを友達に紹介しよう 1時間

2 題材の評価規準

| 家庭生活への<br>関心・意欲・態度                                   | 生活を<br>創意工夫する能力  | 生活の技能   | 家庭生活についての<br>知識・理解                  |
|--|--|---|-------------------------------------|
| 自分の成長と家族に関心をもち、思い出の服を無駄なく使い、見通しをもってプレゼントを製作しようとしている。 | 家族へのプレゼントの製作計画や環境に配慮した布等の材料の使い方、目的に応じた縫い方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。 | 思い出の服を無駄なく使い、目的に応じた縫い方で製作に必要な用具を安全に取り扱い、手縫いやミシン縫いで家族へのプレゼントを製作することができる。 | 手縫いやミシン縫いによる目的に応じた簡単な縫い方について理解している。 |

3 指導と評価の計画 (13時間)

| 時間                          | ねらい・学習活動  | 評価規準     |      |    |       | 評価規準(評価方法)  |
|-----------------------------|---|----------|------|----|-------|---|
|                             |   | 関心・意欲・態度 | 創意工夫 | 技能 | 知識・理解 |   |
| 1<br>2                      | 自分の成長を振り返り、家族のために思い出の服で感謝のプレゼントを贈る見通しをもつ。<br>・成長により着られなくなった服との思い出をグループで発表し合う。<br>・自分の成長を振り返り、家族に感謝の気持ちを伝えるプレゼントを贈ることを考える。<br>(次時まで家族にプレゼントする製作物を考えておく。) |          |      |    |       | <b>関</b> 自分の成長と家族に関心をもち、家庭生活と家族の大切さに気付いている。<br>(行動観察, 学習カード)  |
| 3<br>4                      | 思い出の服をできるだけ無駄のない使い方で家族へのプレゼントの製作計画を工夫することができる。<br>・家族へのプレゼントとして思い出の服をリメイクする方法を考える。<br>・思い出の服の無駄のない使い方について考える。<br>・製作計画をグループで発表し合い、計画を見直す。               |          |      |    |       | <b>創</b> 家族へのプレゼントやその製作計画について考えたり、自分なりに工夫したりしている。<br>(製作計画, 実習記録表)<br><b>創</b> 思い出の服を無駄のない使い方について考えたり、工夫したりしている。<br>(行動観察, 製作計画, 実習記録表)     |
| 5<br>6<br>7<br>8<br>9<br>10 | 思い出の服を無駄なく使い、目的に応じた縫い方で家族へのプレゼントを製作することができる。<br>・製作に必要な材料や用具を準備する。<br>・無駄のない使い方で服を裁つ。   |          |      |    |       | <b>関</b> 製作に必要な用具等を準備し、見通しをもって製作しようとしている。<br>4~8時間で適切な評価場面を設定する。<br>(行動観察, 製作計画, 実習記録表)<br><b>技</b> 思い出の服を無駄なく用いて製作することができる。<br>(行動観察, 製作物) |

|    |  |  |  |  |  |
|----|--|--|--|--|--|
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・製作手順に従い、実物見本や段階標本などを参考にしながら用具を安全に取扱い、製作する。</li> <li>・毎時間ごとに学習の振り返りを実習記録表に記入し、次時のめあてを確認する。</li> <li>・仕上げをする。</li> </ul> <p>(手紙を添えて、家族にプレゼントを渡す。)</p>  |  |  |  | <p><b>知</b> 製作に必要な材料や用具が分かり製作手順について理解している。</p> <p><b>ペーパーテスト</b></p> <p><b>関</b> 思い出の服を無駄なく使うことに関心をもち製作しようとしている。</p> <p>4～8時間で適切な評価場面を設定する。</p> <p><b>(行動観察, 製作計画, 実習記録表)</b></p> <p><b>創</b> 手縫いやミシン縫いを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。</p> <p><b>(製作計画, 実習記録表, 製作物)</b></p> <p><b>技</b> 目的に応じた手縫いやミシン縫いを用いた直線縫いで家族へのプレゼントを製作することができる。</p> <p><b>(行動観察, 製作物)</b></p> |
| 12 | <ul style="list-style-type: none"> <li>作品の工夫や贈ったの感想などをまとめることができる。</li> <li>・工夫したことや作品の出来ばえ、渡したときの感想などをまとめる。</li> </ul>   |  |  |  | <p><b>創</b> 家族のことを考え、自分なりに工夫したりしている。</p> <p><b>(学習カード)</b></p>   |
| 13 | <ul style="list-style-type: none"> <li>まとめたことを発表し合い、これからの家庭生活で自分ができることについて考えることができる。</li> <li>・グループ内でプレゼントを紹介し合い、学級で共有する。</li> <li>・家族からの手紙を読む。</li> <li>・これからの家庭生活で自分ができることを考える。</li> </ul> |  |  |  | <p><b>関</b> これからの家庭生活をよりよくしようとしている。</p> <p><b>(行動観察, 学習カード, 相互評価)</b></p>  |

#### 4 本時の展開 (3・4 / 13時間)

##### (1) 本時のねらい

思い出の服をできるだけ無駄のない使い方で、家族へのプレゼントの製作計画を工夫することができる。

##### (2) 学習活動と評価

| 時間 | 学習活動  | 指導上の留意点   | 評価場面・評価方法 |
|----|---|---|-----------|
| 5  | 1 本時の学習のめあてを確認する。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             思い出の服で家族へのプレゼントの製作計画を立てよう。           </div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の思い出の服を生かし、家族のことを考えて感謝の気持ちを表すものを製作するように伝える。</li> <li>・製作計画の立て方を確認する。</li> </ul> |           |

|                    |   |   |  |
|--------------------|---|---|--|
| 40<br><br>20<br>20 | 2 各自で思い出の服をどのようにリメイクするか製作計画を立てる。プレゼントを決める。出来上がり図を記入する。工夫することを記入する。<br>・無駄のない使い方の工夫<br>・形や大きさの工夫<br>・縫い方の工夫<br>必要な材料を記入する。 | ・リメイク作品の実物見本や段階標本を準備し、計画の参考にさせる。<br>・製作物について、どのように工夫したらよいか分からない児童は、具体的な工夫例を紹介する。<br>・服を無駄なく使うためにどのように工夫したらよいか分からない児童には、作品例などを見て考えさせる。 | 製作計画に工夫点を記入する場面<br><br>評価方法<br>【製作計画】資料<br>創意工夫            |
|                    | 3 グループごとに、各自が工夫したところを発表し合い、計画を見直す。  | ・個々の児童の気付きを認め、励ますようにする。   | 無駄のない服の使い方を考える場面<br><br>評価方法<br>【行動観察】<br>【製作計画】資料<br>創意工夫 |
|                    | 4 製作計画の修正を行う。<br>・友だちの作品やアドバイスからの気付きを記入し、修正をする。   | ・グループでの話し合いを受けて修正させる。<br>・児童の課題への追求の状況を把握するため、修正した部分に分かるように製作計画に記入させる。  |  |
| 5                  | 5 本時の学習のまとめをする。   | ・次時の製作への意欲につながるようにする。   |  |

資料 児童 a の製作計画 (3 ~ 11 / 13 時間)

思い出の服で家族への感謝を伝えよう

|   |  |  |  |   |  |         |  |
|---|--|--|--|---|--|---------|--|
| 服の思い出<br>服( ワンピース )                       |  |  |  | 小さいころにお母さんから買ってもらった。プールに泳ぎに行くときによくきていた。 |  |         |  |
| プレゼントする人                                  |  | お母さん   |  | プレゼントするもの                               |  | カフェエプロン |  |
| このプレゼントにした理由                              |  | いつも料理を作ってくれるから、そのときに着てほしい。                     |  |   |  |         |  |
| こんな思いで作る                                  |  | いつもおいしい料理を作ってくれるお母さんに、お料理を作ってくれてありがとうと思いながら作る。 |  |   |  |         |  |
| 出来上がり図                                    |  |  |  |   |  |         |  |
|   |  |  |  |   |  |         |  |
| 材料  |  |  |  |   |  |         |  |
| さいほう道具                                    |  |  |  |   |  |         |  |
| 工夫するところ                                   |  |  |  |   |  |         |  |
| むだのない使い方の工夫                               |  | 形や大きさの工夫                                       |  | ぬい方の工夫                                  |  | その他の工夫  |  |
| ワンピースの下の部分をカフェエプロンにする。                    |  |  |  | しょうぶにするためにミシンでぬう。                       |  |         |  |
| 友達の作るものやアドバイスから気付いたこと                     |  |  |  |   |  |         |  |
| 友達がポケットを付けたらと言ってくれたので、ワンピースの上の部分を使うことにした。 |  |  |  |   |  |         |  |

創意工夫 の評価

児童 a は、日頃から料理を作ってくれる母親に対しての感謝の気持ちを込めて、料理作りに役立つカフェエプロン製作に決めた。家族のことを考えて工夫していることから「おおむね満足できる」状況 ( B ) と判断した。

「十分満足できる」状況 ( A ) と判断した児童の具体的な例

タオルをかけられるようにカフェエプロンにひもを付ける。長さが短いので、別のスカートの布をたして長くする。

家族のための工夫として、便利さや長さなどについて具体的に記述していることから「十分満足できる」状況 ( A ) と判断した。

創意工夫 の評価

児童 a は、ワンピースの上をポケットに使うことで、ワンピースをできるだけ無駄のないように工夫しようとしていることから「おおむね満足できる」状況 ( B ) と判断した。

「十分満足できる」状況 ( A ) と判断した児童の具体的な例

友達が、シャツでエプロンを作ろうとしていて、自分もカフェエプロンより普通のエプロンがワンピースをそのまま使えてむだのない使い方ができると思った。

ワンピースの形を生かし、カフェエプロンからエプロンに変更した。無駄のない使い方を具体的に考えていることから「十分満足できる」状況 ( A ) と判断した。

## 小学校家庭科における学習評価の進め方Q & A

Q これからは1時間に1回または2回程度、評価を行えばよいということですか。

A 通知表や指導要録などのために記録に残す評価についてはそのようになります。しかしながら、その評価は本時の指導目標が達成できたかどうかという教師自身の評価でもあるので、すべての児童が最低でも、「おおむね満足できる」状況(B)と評価できるようにしたいものです。そのためには、それまでの過程において、今まで通りに、児童の学習状況について、形成的評価とそれに基づく適切な指導を行うことはいうまでもありません。

Q すべての児童の状況を評価するのは難しいと思いますが、何かよい工夫はないですか。

A 1時間の中で、全ての児童について評価を行うのは確かに難しいと思います。例えば、調理計画で材料や手順に関心をもち、意欲的に調べている場面や調理実習で材料や目的に応じて調理している場面など、適切に学習状況を把握できる場面を設定し、教師による行動観察と調理計画・実習記録表や学習カードの記述内容から評価するという方法などがあります。また、行動観察についても、できるだけ記入が簡単な教師用チェックリストなどを準備すると、効率よく評価できます。

Q 毎時間の評価の記録はどのようにすればよいですか？

A 行動観察の場合は、本時に位置付けた評価規準に基づいて、あらかじめ教師用チェックリストなどを作っておくとよいと思います。記録はできるだけ簡便にして(例えば、Bは空欄、Aのみに、Cは気になる点をメモなど)、効率的に評価できるようにしておくとよいと思います。

Q 収集した評価の記録を総括するにはどのようにしたらよいですか？

A 題材の「学習活動に即した評価規準」に基づいて、行動観察、学習カードの記述内容、できあがった料理(の写真)、ペーパーテストなどの方法により、A、B、Cで観点別の評価を行ったとします。これらの評価の記録を総括する方法としては、例えば、それらを「観点ごと」にA 1、B 2、C 1というように数値化し、各観点の合計点について、満点の85%以上であれば「A」、84~50%であれば「B」、それ未満であれば「C」とするなどの方法が考えられます。同様に、「題材の総括」についても、「観点ごとの総括」のA、B、Cを3、2、1で数値化し、4観点の合計点について、満点の85%以上であれば「A」、84~50%であれば「B」、それ未満であれば「C」とする方法があります。

なお、この場合、A A B Bの場合は、Bとなりますが、AとBの数が同数の場合、Aとするなど様々な考えや方法がありますので、各学校において工夫されるとよいでしょう。

この手引きは、国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」(小学校)などを参考にして、作成しています。詳細については、以下のURLをご参照ください。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryuu.html>